

Contact:

東京

鈴木 智哉

主任格付アナリスト／VPシニア・アナリスト

金融機関グループ

ムーディーズ・ジャパン株式会社

お客様専用電話番号：03-5408-4100

報道関係者電話番号：03-5408-4110

東京

関 雄介

格付責任者

アソシエイト・マネージング・ディレクター

ムーディーズ・ジャパン株式会社

お客様専用電話番号：03-5408-4100

報道関係者電話番号：03-5408-4110

[MJKK]SBI新生銀行の格付Baa1を確認、見通しは安定的

2023年11月24日、東京、ムーディーズ・ジャパン株式会社（以下「ムーディーズ」）は、株式会社SBI新生銀行（以下「SBI新生銀行」）のBaa1の長期預金格付（自国通貨建および外貨建）を確認した。また、同行のbaa3のベースライン信用リスク評価（BCA）と調整後BCA、P-2の短期預金格付（自国通貨建および外貨建）、A3/P-2の長期/短期カウンターパーティ・リスク格付（自国通貨建および外貨建）ならびにA3(cr)/P-2(cr)の長期/短期カウンターパーティ・リスク評価を確認した。格付の見通しは引き続き安定的である。

格付理由

今回の格付の確認は、SBI新生銀行が今後12-18カ月にわたり中位の収益性と安定した自己資本を維持するであろうとのムーディーズの予想を反映している。一方で、コンシューマーファイナンス業務とストラクチャードファイナンス業務を主に手掛けていることによる相対的に高リスクの事業プロファイル、貸出の急速な拡大に伴うアセット・リスクの高まり、安定した大手競合行に比して弱い預金基盤が、こうした強みを弱めている。

SBIグループが2021年12月に同行を連結子会社化したことを受け、経営陣が刷新されてから、SBI新生銀行は預金残高と事業資産を大きく拡大してきた。貸出金と売掛割賦債権（合算ベース）は、2022年4月1日から2023年9月末にかけて37%拡大し、2018年度から2021年度の単年度平均増加率の4%を大幅に上回った。大幅な事業資産の拡大は、国内の歴史的に高いインフレ率や上昇基調にある金利を考慮すれば、資産の質が悪化するリスクをもたらす。

また、事業資産の大幅な拡大により、有形普通株主資本/リスクアセット比率（TCE比率）は2022年9月末の11.4%から、2023年9月末時点では10.8%（試算ベース）に低下したとみられる。ただし、2023年9月末時点の普通株式等Tier 1 比率10.4%に対し、2024年度の同比率の中計最終年度目標は10%以上を目途と設定されていることから、貸出の拡大ペースは緩やかになるとムーディーズはみている。

SBIホールディングス株式会社とSBI新生銀行は、2025年3月末までに公的資金の返済に向けた具体的な仕組みを日本政府に提示することを公表している。日本政府は2023年9月末時点で、同行株式の22.97%を保有している。しかしながら、大幅な増配が行われたり、内部留保が公的資金返済の

全額あるいは一部に充てられた場合、同行の自己資本比率を押し下げることになり、信用評価上ネガティブである。

貸出が急速に拡大しているものの、SBI新生銀行の資産の質は安定している。連結ベースの不良債権比率は2022年9月末時点の2.1%から2023年9月末時点は1.7%に改善したが、貸出の急速な拡大に伴うリスクが十分に反映されていない可能性がある。

SBI新生銀行の預金基盤は、高い預金コストや定期預金の割合を考慮すると、格付対象の邦銀と比較して弱い。ただし同行の流動性は、2023年9月末時点で約70%の低い預貸率によって支えられている。リテール預金は2023年6月末時点の預金全体の68%を占め、前年同期の79%から減少した。これは預金の増加分の大半は法人預金だったことが理由である。法人預金と比べると、リテール預金は安定性が高く、預金保険制度によってほぼ保護されていることから、法人預金がリテール預金より急速に拡大することは、同行の資金調達にリスクをもたらす。

SBI新生銀行の長期預金格付Baa1は、baa3のBCAに2ノッチのアップリフトを織り込んだものである。これは、ストレス状況下で日本政府からのサポートが提供される可能性が高いというムーディーズの想定を反映している。一方、同行の主力市場は、銀行サービスを提供する多数の大手金融機関が事業を展開する都市部に集中している。そのため、政府からのサポートを受けられる可能性は、国内のメガバンクや大手地方銀行をやや下回る。

将来の格上げあるいは格下げにつながる要因

SBI新生銀行が他行を大幅に上回る預金金利を提供せずにリテール預金基盤を実質的に拡充できた場合や、アセット・リスクを大きく高めることなく、TCE比率が14%超に上昇し、かつ純利益/有形資産比率が1.0%超に改善し、それぞれがその水準で維持された場合、同行の格上げを検討する。

一方、同行のTCE比率が10%未満に低下し、その水準で推移した場合、事業拡大により全般的なリスクが大幅に高まったり、特に貸出の経過期間とともに資産の質が悪化した場合、与信関連費用の増加により収益性がさらに低下した場合、法人預金への依存度が高まり、預金の質が悪化した場合、同行の格下げを検討する。

本格付に利用された主な格付手法は、弊社ウェブサイト (<https://ratings.moodys.com/japan/ratings-news>) の「格付手法」に掲載されている「銀行格付手法」（2021年7月）である。

株式会社SBI新生銀行（本店：東京）は、国内大手銀行の一行。2023年9月末時点の連結ベースの総資産は約14.4兆円。

規制開示

本格付に利用した主要な情報の概要及び情報の提供者は、本格付に関与した関係者（発行体）、公表情報、ムーディーズが有する機密情報である。

情報の品質を確保するためムーディーズは、公表された情報や第三者による見解を利用し、主任格付アナリストによる確認を行う措置をとった。

ムーディーズ・ジャパン株式会社は日本の金融庁に登録された信用格付業者（金融庁長官（格付）第2号）である。直近1年以内に講じられた監督上の措置はない。

信用格付は、事業体、与信契約、債務又は債務類似証券の将来の相対的信用リスクについてのムーディーズの現時点の意見である。ムーディーズは、信用リスクを、事業体が契約上・財務上の義務を期日に履行できないリスク及びデフォルト事由が発生した場合に見込まれるあらゆる種類の財産上の損失と定義している。信用格付は、流動性リスク、市場価値リスク、価格変動性リスク及びその他のリスクについて言及するものではない。信用格付は、投資又は財務に関する助言を構成するものではなく、特定の証券の購入、売却、又は保有を推奨するものではない。ムーディーズは、いかなる形式又は方法によっても、これらの格付もしくはその他の意見又は情報の正確性、適時性、完全性、商品性及び特定の目的への適合性について、（明示的、黙示的を問わず）いかなる保証も行っていない。発行体又は債務の信用リスクは、発行体から入手した情報、又は公開情報に基づき評価される。ムーディーズは、信用格付を付与する際に用いる情報が十分な品質を有し、またその情報源がムーディーズにとって信頼できると考えられるものであることを確保するため、全ての必要な措置を講じている。しかし、ムーディーズは監査を行うものではなく、格付の過程で受領した情報について常に独自に確認することはできない。ムーディーズは、必要と判断した場合に本格付を変更することがある。また、資料、情報の不足や、その他の状況により、本格付を取り下げることがある。

信用状態に関する評価の前提となる事項及び信用状態に関する評価の結果を示す等級を定めるために用いる基準が記載された「金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第36号イに定めのある格付付与方針等に関する事項」については弊社ウェブサイト (<https://ratings.moodys.com/japan/ratings-news>) の「方針」を参照されたい。

個別の信用格付についての追加的な規制開示については、弊社ウェブサイト (<https://ratings.moodys.com/japan/ratings-news>) 上の組織/案件名のページを参照されたい。

ムーディーズ・ジャパン株式会社
105-6220 東京都港区愛宕2-5-1
愛宕グリーンヒルズMORIタワー 20階
報道関係者電話番号：03 5408 4110
お客様専用電話番号：03 5408 4100

(C) 2023年 Moody's Corporation, Moody's Investors Service, Inc., Moody's Analytics, Inc. 並びに（又は）これらの者のライセンス及び関連会社（以下総称して「ムーディーズ」といいます。）。無断複写・転載を禁じます。

ムーディーズの信用格付を行う関連会社により付与される信用格付は、事業体、与信契約、債務又は債務類似証券の相対的な将来の信用リスクについての、ムーディーズの現時点での意見です。ムーディーズの資料、製品、サービス及び公開情報（以下総称して「刊行物」といいます。）は、ムーディーズの現時点における意見を含むことがあります。ムーディーズは、信用リスクを、事業体が契約における財務上の義務を期日に履行できないリスク及びデフォルト事由又は経済的損害（インペアメント）が発生した場合に見込まれるあらゆる種類の財産的損失と定義しています。ムーディーズの信用格付において言及された、契約における財務上の義務の類型に関する情報については、ムーディーズの刊行物である該当する「格付記号と定義」をご参照ください。信用格付

は、流動性リスク、市場価値リスク、価格変動性及びその他のリスクについて言及するものではありません。信用格付、非信用評価（以下「評価」といいます。）及びムーディーズの刊行物に含まれているその他の意見は、現在又は過去の事実を示すものではありません。ムーディーズの刊行物はまた、定量的モデルに基づく信用リスクの評価及びMoody's Analytics, Inc. 及び/又はその関連会社が公表する関連意見又は解説を含むことがあります。ムーディーズの信用格付、評価、その他の意見及び刊行物は、投資又は財務に関する助言を構成又は提供するものではありません。ムーディーズの信用格付、評価、その他の意見及び刊行物は特定の証券の購入、売却又は保有を推奨するものではありません。ムーディーズの信用格付、評価、その他の意見及び刊行物は、特定の投資家にとっての投資の適切性について論評するものではありません。ムーディーズは、各投資家が、相当の注意をもって、購入、保有又は売却を検討する各証券について投資家自身で研究・評価するという期待及び理解の下で、信用格付を付与し、評価を行い、その他の意見を述べ、自社の刊行物を発行します。

ムーディーズの信用格付、評価、その他の意見及び刊行物は、個人投資家の利用を意図しておらず、個人投資家が投資判断を行う際にムーディーズの信用格付、評価、その他の意見又は刊行物を利用することは、慎重を欠く不適切な行為です。もし、疑問がある場合には、ご自身のフィナンシャル・アドバイザーその他の専門家にご相談することを推奨します。

ここに記載する情報はすべて、著作権法を含む法律により保護されており、いかなる者も、いかなる形式若しくは方法又は手段によっても、全部か一部かを問わずこれらの情報を、ムーディーズの事前の書面による同意なく、複製その他の方法により複製、リパッケージ、転送、譲渡、頒布、配布又は転売することはできず、また、これらの目的で再使用するために保管することはできません。

ムーディーズの信用格付、評価、その他の意見及び刊行物は、規制目的で定義される指標（ベンチマーク）としてのいかなる者による使用も意図しておらず、これらが指標（ベンチマーク）と見なされる結果を生じるおそれのあるいかなる方法によっても使用してはならないものとします。

ここに記載する情報は、すべてムーディーズが正確かつ信頼しうると考える情報源から入手したものです。しかし、人的及び機械的誤りが存在する可能性並びにその他の事情により、ムーディーズはこれらの情報をいかなる種類の保証も付すことなく「現状有姿」で提供しています。ムーディーズは、信用格付を付与する際に用いる情報が十分な品質を有し、またその情報源がムーディーズにとって信頼できると考えられるものであること（独立した第三者がこの情報源に該当する場合があります）を確認するため、すべての必要な措置を講じています。しかし、ムーディーズは監査を行う者ではなく、信用格付の過程で又は自社の刊行物の作成に際して受領した情報の正確性及び有効性について常に独自に確認することはできません。

法律が許容する範囲において、ムーディーズ及びその取締役、役職員、代理人、代表者、ライセンサー及びサプライヤーは、いかなる者又は法人に対しても、ここに記載する情報又は当該情報の使用若しくは使用が不可能であることに起因又は関連するあらゆる間接的、特別の、派生的又は付随的な損失又は損害に対して、ムーディーズ又はその取締役、役職員、代理人、代表者、ライセンサー又はサプライヤーのいずれかが事前に当該損失又は損害（(a) 現在若しくは将来の利益の喪失、又は (b) 関連する金融商品が、ムーディーズが付与する特定の信用格付の対象ではない場合に生じるあらゆる損失若しくは損害を含むがこれに限定されない）の可能性について助言を受けていた場合においても、責任を負いません。

法律が許容する範囲において、ムーディーズ及びその取締役、役職員、代理人、代表者、ライセンサー及びサプライヤーは、ここに記載する情報又は当該情報の使用若しくは使用が不可能であることに起因又は関連していかなる者又は法人に生じたいかなる直接的又は補償的損失又は損害に対しても、それらがムーディーズ又はその取締役、役職員、代理人、代表者、ライセンサー若しくはサプライヤーのうちいずれかの側の過失によるもの（但し、詐欺、故意による違反行為、又は、疑義を避けるために付言すると法により排除し得ない、その他の種類の責任を除く）、あるいはそれらの者の支配力の範囲内外における偶発事象によるものである場合を含め、責任を負いません。

ムーディーズは、いかなる形式又は方法によっても、信用格付、評価、その他の意見又は情報の正確性、適時性、完全性、商品性又は特定の目的への適合性について、（明示的、黙示的を問わず）いかなる保証も行っておりません。

Moody's Corporation（以下「MCO」といいます。）が全額出資する信用格付会社であるMoody's Investors Service, Inc. は、同社が格付を行っている負債証券（社債、地方債、債券、手形及びCPを含みます）及び優先株式の発行者の大部分が、Moody's Investors Service, Inc. が行う信用格付意見・サービスに対して、信用格付の付与に先立ち、1,000ドルから約500万ドルの手数料をMoody's Investors Service, Inc. に支払うことに同意していることを、ここに開示します。また、MCO及びMoody's Investors Serviceは、Moody's Investors Serviceの信用格付及び信用格付過程の独立性を確保するための方針と手続を整備しています。MCOの取締役と格付対象会社との間、及び、Moody's Investors Service, Inc. から信用格付を付与され、かつMCOの株式の5%以上を保有していることをSECに公式に報告している会社間に存在し得る特定の利害関係に関する情報は、ムーディーズのウェブサイトwww.moody's.com上に「Investor Relations-Corporate Governance-Charter Documents-Director and Shareholder Affiliation Policy」という表題で毎年、掲載されます。

オーストラリア専用の追加条項：この文書のオーストラリアでの発行は、ムーディーズの関連会社であるMoody's Investors Service Pty Limited ABN 61 003 399 657（オーストラリア金融サービス認可番号336969）及び（又は）Moody's Analytics Australia Pty Ltd ABN 94 105 136 972（オーストラリア金融サービス認可番号383569）（該当する者）のオーストラリア金融サービス認可に基づき行われます。この文書は2001年会社法第761G条の定める意味の範囲内における「ホールセール顧客」のみへの提供を意図したものです。オーストラリア国内からこの文書に継続的にアクセスした場合、貴殿は、ムーディーズに対して、貴殿が「ホールセール顧客」であること又は「ホールセール顧客」の代表者としてこの文書にアクセスしていること、及び、貴殿又は貴殿が代表する法人が、直接又は間接的に、この文書又はその内容を2001年会社法第761G条の定める意味の範囲内における「リテール顧客」に配布しないことを表明したことになります。ムーディーズの信用格付は、発行者の債務の信用力についての意見であり、発行者のエクイティ証券又は個人投資家が取得可能なその他の形式の証券について意見を述べるものではありません。

日本専用の追加条項：ムーディーズ・ジャパン株式会社（以下「MJJK」といいます。）は、ムーディーズ・グループ・ジャパン合同会社（MCOの完全子会社であるMoody's Overseas Holdings Inc.の完全子会社）の完全子会社である信用格付会社です。また、ムーディーズSFジャパン株式会社（以下「MSFJ」といいます。）は、MJJKの完全子会社である信用格付会社です。MSFJは、全米で認知された統計的格付機関（以下「NRSRO」といいます。）ではありません。したがって、MSFJの信用格付は、NRSROではない者に

より付与された「NRSROではない信用格付」であり、それゆえ、MSFJの信用格付の対象となる債務は、米国法の下で一定の取扱を受けるための要件を満たしていません。MJKK及びMSFJは日本の金融庁に登録された信用格付業者であり、登録番号はそれぞれ金融庁長官（格付）第2号及び第3号です。

MJKK又はMSFJ（のうち該当する方）は、同社が格付を行っている負債証券（社債、地方債、債券、手形及びCPを含みます。）及び優先株式の発行者の大部分が、MJKK又はMSFJ（のうち該当する方）が行う信用格付意見・サービスに対して、信用格付の付与に先立ち、10万円から約5億5,000万円の手数料をMJKK又はMSFJ（のうち該当する方）に支払うことに同意していることを、ここに開示します。

MJKK及びMSFJは、日本の規制上の要請を満たすための方針及び手続も整備しています。